

分析的に読み取り，表現する児童の育成

— 教育課程における小 6 年国語と他教科の連携を通して —

北名古屋市立西春小学校 教諭 塩谷 容子

はじめに

昨今、OECDが平成12年から3年ごとに行っているPISA調査において、読解力を中心に日本の順位が下がってきていることが問題となっている。その結果、文部科学省はゆとり教育を見直し、新学習指導要領では、学習内容や授業時間数の増加が示されている。このPISA型読解力とは、従来の国語科で行われている文学教材や説明文教材における、登場人物の気持ちや文脈から筆者の主張を読み取る読解力とは異なり、「文字だけではなくグラフや図表まで含めた資料の意味を分析的・批判的に読み取り、解釈し、自分の意見として表現する力」のことである。現代の日本では、このPISA型読解力を育成することが課題となっている。

一方、本学級の実態をみると、4月当初から前向きに行事や学習に取り組む児童が数人おり、その児童が活発に意見を出し、中心となって活動していく形が1学期の終わりには出来上がった。その子たちが様々な面で学級を盛り上げていくので、徐々にその雰囲気全体に広がり、物事に積極的に取り組むことができるようになってきた。学習においても同様で、全体的に前向きとなり、授業開始のチャイムで静かに学習を始めたり、授業中も意欲的に発言したりすることができるようになった。その中で分からないことを自主的に調べる児童もごく一部であるが見られた。しかし、細かく見ていくと、意欲はあるが、内容を読み取ったり、分かりやすく具体的かつ論理的に自分の意見を述べたり、書いたりすることが苦手な児童も多く見られる。このことから、本学級でもPISA型読解力が不足していると言える。

そこで、本研究では、国語科と他教科を連携し、より分析的に内容を読み取り、的確に表現する力を育てていくことにした。そして、以下のように研究の目的を設定した。

1 研究の目的

自分の考えや意見を書くためには、子供自身がその対象に対して深い知識をもった上で、資料を分析し、結果について考えることができなくてはならない。そして、資料に基づいて自分の意見を適切に書く力を高める必要がある。そのためには、図書資料やインターネットなどを活用するに際してもすべての児童が容易に情報を得ることができ、かつ、理解しやすい内容であることが重要である。その上に、多くの学習事項の中から1単元にかけられる時間数を考えると、教科書教材の中で連携に適した教材を選択することが、児童にとっても教師にとっても負担が少なく、かつ、実践しやすい内容になると思われる。

そこで、次のように研究の仮説を立て、国語科と他教科の連携を進めた。

研究の仮説

他教科の学習を生かし、その学習内容から自分の課題を見付け、追究し、それを意見文としてまとめる。そのプロセスを繰り返すことにより、児童の「読解力」は高められるだろう。

ここで言う「読解力」とは次のような力である。

身に付けさせたい読解力

- ・文章や図表など様々な資料を正確に読み取り，理解する力
- ・目的に応じて図表などを選択し，自分の考えを深める力
- ・学習したことを基に自分の考えを明確にし，筋道立てて分かりやすく記述する力

2 研究の方法

児童に自分の意見を書かせるには，まず意見文の書き方から指導する必要がある。そこで，国語科単元「わたしの意見を書こう」（東京書籍）で意見文の書き方を学習させ，的確に自分の考えを表現する力を育てることにした。次に，他教科の中で身近で児童が意見をもちやすく，図表，写真やグラフも掲載されていて分析的に読み取る活動ができ，また，その学習内容を児童が調べていくときに，他にも資料があり，容易に調べることのできる単元や教科教材を検討した。その結果，体育科保健領域の教科書「たばこ，酒，薬物の害から身を守ろう」（大日本図書），理科「人とかんきょう」（東京書籍），社会科「国際連合のはたらきと日本人の役割」（大阪書籍）などが，教科書の中に図表，写真やグラフがあり，児童にとっても身近な問題で分析的に読み取り，意見をもつことができると考えた。特に環境問題については，世間の関心も高い分野であるため，インターネットや図書資料などが豊富で意見文を書くときにも資料を独自に探せる。そこで，第一次実践として，体育科保健領域との連携を行い，次に，第一次実践の結果を踏まえて，第二次実践として理科，社会科との連携を図ることにした。実践に当たっては，次のような手だてを設定した。

(1) 研究の手だて

手だて 分析的に読み取り，表現する力を養うために国語科で表現の仕方を学び，他教科で知識と考えを深めた上で，両教科を連携させて，自分の考えを表現するという学習の流れをつくる。

これを踏まえて第一次実践では，教科書の体育科保健領域で情報を得，興味をもった内容についてインターネットや図書資料等を使って調査追究し，国語科で習得した意見文の書き方を用いて，自分なりの意見を表現させることにした。第二次実践では，理科，社会科の授業で教科書を使って環境について情報を得，興味をもった内容について，更に詳しく調査追究し，意見文として自分の考えを表現させることにした。その際，より説得力ある意見文にするために図表，写真やグラフを取り入れさせるようにした。この考えの下に学習計画を立てた。（文末資料1）

(2) 抽出児について

研究の有効性を探るため，関心・意欲や能力を，低・中・高の3段階に分け，それぞれの段階に該当する児童を3人選び，抽出児とする。（以降，A，B，Cとする）

- A：高位の児童。クラスを中心となって引っ張っていく児童の一人。特に，学習に前向きで，定着度も高く，理解力もある。
- B：中位の児童。大人しく積極的に発言することはないが，まじめに物事に取り組むことができる。
- C：低位の児童。書くことに苦手意識をもち，作文をなかなか書き始められない。自分の考えを書けずに終わることもある。

3 研究の内容

(1) 第一次実践（平成19年度6年生2学期）

ア 体育科保健領域「たばこ，酒，薬物の害から身を守ろう」の実践

まず始めに、保健の学習内容に興味をもたせるため、世界各国のたばこのパッケージについている警告文の喫煙の字の部分を入力にして示し、□の中を当てるクイズを出した。(資料1)

【資料1 各国のたばこパッケージの注意書き】

- 1, □は, 早死にする。
- 2, □は, あなたを殺すかもしれない。
- 3, □は, あなたの健康に有害である。
- 4, 毎年, □による犠牲者は, 交通事故による犠牲者よりも多い。
- 5, あなたの健康を損なうおそれがありますので吸いすぎに注意しましょう。□マナーを守りましょう。

この答えについてはすぐに分かったようだが、喫煙による犠牲者は交通事故による犠牲者よりも多いと書かれていて、その内容に衝撃を受けたようだった。また、それぞれの国の警告文を紹介したところ、日本と海外の警告文を比べてみて、日本は「あまり深刻な感じがしない」「吸っても大丈夫という気になる」という意見が出た。その後、たばこの害について知っている内容を発表させたが、身近にたばこを吸っている人が多いためか、「ニコチンやタールという有害物質が入っている」、「やめられなくなる」、「がんになる」、「たんが絡む」、「1本吸うと25mgビタミンが減ると」、「5分寿命が縮まる」という意見が出て、子供たちはかなり詳しく知っていた。その後、なぜ体に悪いと分かっているのに、たばこを吸ってしまうのか、教科書を使って吸い始めた年齢ときっかけをグラフから読み取った。そのグラフから身近な人に誘われることが多いということ、吸い始めた年齢が早いほど肺ガンにかかりやすい結果が出ていることを知り、実際のきっかけとして一番多い、仲間に誘われた場面を取り上げ、席の隣同士で断り方の練習をした。そして、上手に断っている子供に授業の終わりに発表させ、授業のまとめとして感想を書かせた。(資料2)

次に、酒の害について学習した。

【資料2 授業の感想①】

授業の導入として、昔から日本にある言葉に「□は百薬の長」とあるが、□は何か質問すると、子供たちはすぐに「酒」と分かった。その後、お酒を飲むとどうなるか話し合い、脳の萎縮やホルモン異常、肝臓への影響、大正時代から日本では未成年者の飲酒が禁止されていることについて説明した。特に教科書の肝臓の写真を見て、正常な時との違いに驚いたようだった。そして、飲酒のきっかけを表すグラフを読み取り、家族や親戚から誘われることが多いことを学んだ。その後、たばこと同様に断り方の練習をし、授業の感想をまとめた。(資料3)

Aの感想	たばこは、体に本当に悪いものなんだと改めて実感しました。 先はいにさそわれたときは糸色直に迷わろうと思いましたが、 たばこはすいたくないなと思いました。
Bの感想	たばこを吸うと、一番脳に悪いところがあるということがわかった。一本吸ってもやめられなくなるから、仲間や親にさそわれても、せーたいに断る!!
Cの感想	たばこを吸っている人の、吸い始めたときのわけが分かりました。仲間が吸っていても、先はいや、友達にさそわれても吸いたくないので、ことわろうと思います。

他(資料3)の多くの子供たちも「酒の害はたばこの害に似ている」「お酒を飲むだけで脳が縮んだり、痴呆になったり、体がうまく成長できなくなるなんてびっくりした」「やめられなくなったり、骨粗鬆症やガンになると聞いて怖いと思った」「誘われても断る。上手な断り方を知りたい」などの感想をもった。

最後に、薬物の害について学習した。授業の導入で、一人一人に渦巻きを書かせた後、シンナーを常用して中毒になった人が書いた渦巻きを見せて、どんな人が書いたのか考えさせた。初めは、体の不自由な人だとか、幼児、年寄りだという意見も出たが、シンナーを吸った人が書いた渦巻きだと話した。きちんと書こうとしても書けない。あまりのひどさに子供たちは驚いたようだった。シンナーは一度吸うと体の中から二度と出てこないこと、教科書の図から脳、目、歯や筋肉、胃とありとあらゆる所に影響が現れること、脳の外側から侵され、常用性があるため、一度でも吸うとやめるのに何十倍何百倍の努力が必要となることを説明した。そして、教科書の写真で正常な脳との違いを確認し、グラフからシンナーも身近な人から勧められることを読み取った。子供たちは、授業の中でも「絶対に断りたい」と口々に話していた。(資料4)

これらの体育科保健領域の学習を終えて、興味をもったことについて図書資料やインターネットを使って詳しく調べた。

【資料4 授業の感想③】

Aの感想	<p>薬物はたばこや酒に比べるとかなり危険なので、絶対やらないようにしたいと思いました。</p> <p>薬物は体に害を受けさせることがわがた。(脳がちぢむ、けいかくが見える、内臓から出血するなど)</p> <p>薬物は一回やると何回もやれなくなってしまい、死んだ(まう)。</p>
Bの感想	<p>シンナーは、脳が小さくなったり、自殺もしてしまったりして、とてもこわい薬物だと思いました。</p>
Cの感想	<p>シンナーは、一度吸うとやめられなくなる、やめられなくなるのは、たばこ、酒などと同じだな、と思いました。</p>

【資料3 授業の感想②】

Aの感想	<p>感想 たばこと同様にお酒もほくは体に悪いということも改めて実感しました。なのでお酒は大人になってからでもあまり飲まないようにしたいです。お酒を飲むとがんやほかは、脳のさび、判断力が低下したり、がんになったり、発育が止まったり、脳がちぢんだり、死んでしまったり、骨がもろくなったり、ホルモンがおかしくなったりすることがわがた。ほかにもお酒の害について調べたいと思いました。</p>
Bの感想	<p>私は初め、酒はよ、はらうだけで、死んだりはしないと思、てたけれど、この授業で、酒を飲むと脳や肝臓に悪い影響があることや、アルコールというやめられなくなるものが入っていることがわがた。でも、断るのは少しむずかしかったです。</p>
Cの感想	<p>酒をたくさん飲むと脳や肝臓に悪い、ガンにもなりやすいという勉強をして、酒の害はたばこの害に似ているな、と思いました。</p>

イ 国語科「私の意見を書こう」前半（第1時～第8時）の実践

国語科単元を使って意見文の書き方の指導をした。まず、本文を読み、書き方を理解させた。意見文の書き方として、読み手に「自分の体験」を共感させることが大切だと言うことを強調した。そして、意見文全体を序論・本論・結論に分け、序論に自分の体験を書き、読み手を引き付けること、本論に自分の意見とその根拠を書くこと、自分の意見に対する反対意見もその中に可能なら入れること、結論に自分の考えをまとめることを学んだ。さらに、本論は一番中身をたくさん膨らませることをたとえを使って説明した。そして、体育科保健領域で自分が興味をもったことを調べて取材メモに書かせた後、自分の意見や反対意見を構成メモにまとめさせた。（文末資料2）

その後、推敲の仕方も何に気を付けて推敲するのかを明確に示して学ばせた結果、「文を書くときの書き方や推敲の仕方がわかりました」という感想が出た。さらに、グループで読み合い、互いによいところを述べさせ、代表を一人選ばせた。全体場でなぜ選ばれたのか発表させ、意見文を音読する活動を取り入れ、話す・聞く、書く力を総合的に高めることにした。その結果、「他の人の意見文を読んだり聞いたりして、どのように書いたらもっとよいかなど、とても参考になりました」「人が思っていることなども聞けてよかった」「呼び掛ける言葉などが書いてあったり、自分の意見をはっきり書いてある人ののが特によかったです」「保健で習ったことをさらに意見文にして書いて整理していると、もっといろいろなことがわかりました」という感想が見られた。

このことから、同じ内容でもいろいろな書き方があり、どんな書き方をすると分かりやすいのか実感することができたと言える。そして同時に、人の考えを聞いたり、よいところを紹介したり、自分の意見を書いたりする活動によって、内容をより理解することができたことが分かった。

今回の実践を通して、児童の感想に抽出児Bと同じような「(今回) 意見文を書いて、相手の意見がよく分かったのと、書き方が分かったのがよかったです。その意見文を日ごろの生活の中でも使っていけるとよいと思いました」という感想や「この意見文をもっと幅広く、多くの人たちに読んでもらいたいと思った」「これからはみんなの意見文を参考にして、もっとよい作文を書いていきたいです」「調べたことをまとめたり、分かりやすく表現できたりするようになった」という肯定的な意見が多く見られた。また、「もっと（自分たちの意見をみんなに）広げていきたい」という発展的な意見も書かれ、「書く」という活動に前向きに取り組めたことが分かった

(2) 第二次実践（平成19年度6年生3学期）

ア 理科「人とかんきょう」と社会科「国際連合のはたらきと日本人の役割」の実践

第二次実践では、調べ学習の時間を多く取り、教科書の写真や図、グラフに着目させ、水質や大気の状態、熱帯雨林の状況などの特に環境にかかわる記述に積極的に注目させた。そして、少しでも多くの問題に興味関心が向くように大気汚染、水質汚濁、砂漠化や酸性雨の問題、地球温暖化等、様々な問題を授業で取り上げた。環境問題や環境にやさしい取組については、テレビや新聞でもよく取り上げられているため、子供たちはいろいろ知識をもっていた。また、ふだんから資料集に目を通して書いて書かれていることを発表した子もいた。その上で、意見文を書くときに参考にできるよう、それぞれ自分たちにできることはないか考えさせ、発表させた。

イ 国語科「私の意見を書こう」後半（第9時～第16時）の実践

第一次実践で教科書を使って、意見文の書き方を学習したので、今回は、意見文の効果的な組立てについて振り返り、忘れていた点や大事な点を再度確認した。また、第一次実践を踏まえてもっと客観的で論理的な視点から自分の考えを述べさせたいと考え、図表、写真やグラフを取り入れて書くことよいことを説明した。その後、理科と社会科で学習した内容から興味をもった環境問題について調査

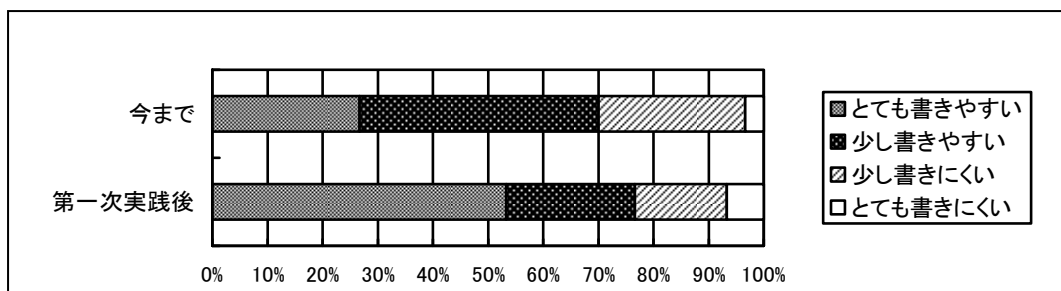
し、取材メモを書いた。それを基に、自分の意見を構成メモにまとめ、意見文を書き、推敲・清書した。(文末資料3)そして、作品を読み合い、感想や意見交流を行った。

4 研究の成果と課題

(1) 他教科の学習を生かすことについて

第一次実践の保健領域の授業で、図表、写真やグラフにも着目させながら、学習内容を理解させた。その後、国語の授業を行い、教材文から意見文の書き方を学ばせた。書く内容について国語科の教科書では日常生活の中での言葉遣いを見直して、言葉の行き違いや誤解といった問題点を見付け意見文を書くことになっていた。この教材設定は身近な問題ではあるものの、自分の考えを意見文としてまとめるには、やや難易度が高いと考えた。そこで、意見文の題材を変更し、保健の内容についてインターネットや図書資料等を使って調べさせ、意見文の書き方に合わせて取材メモや構成メモを書かせていった。この第一次実践を通して、意見文の書きやすさについてアンケートをとったところ、次のような結果が得られた。(資料5)この結果を見ると、今回の取組で、「とても書きやすい」がかなり増え、「少し書きやすい」も合わせると、ほとんどの児童が文章を書くことに抵抗なく取り組めたと言える。

【資料5 意見文の書きやすさ】



また、児童の授業後の感想を見ても「習った学習のことを生かしてまとめたので、案外すらすらと書いて書きやすかったです」「保健の勉強をしっかりとったので、意見文がすらすら書けました」というのが、よく見られた。抽出児も3人とも「書きやすかった」と感じている。これらのことから、授業で学習したことにより知識が深まり、自分の意見をもつことができたので書きやすくなったと言える。第二次実践後にも同様の趣旨から理科、社会科に題材を求めた。実践後に同様の調査を行ったが、上記の結果とほぼ変わらない結果が得られた。

Bの取材メモや構成メモを見ると、両実践ともインターネットや図書資料、テレビといった方法で調べ、第二次実践ではグラフまで記録している。また、書きやすかった理由に、抽出児Cは「けっこう調べられた」「いろいろな資料があった」を挙げ、書きやすさを感じている。また、Aは「自分で調べたことだから、構成メモをつくりやすかった」と書いている。下に載せた他の児童の感想(資料6)を見ても、豊富な資料や実際の体験を基にしたため、自分の意見がもちやすかったという意見が多かった。したがって、仮説で示した他教科で示した「他教科の学習を生かし、その学習から自分の課題を見付け追究し、それを意見文としてまとめる」ことは読読解力の向上に有効であったと言える。

【資料6 実践を通しての児童の感想】

第一次実践

- ・自分の意見がどんどん出てきて、絞りやすかったから。
- ・パソコンや本で調べて書いたから。
- ・保健のことをいろいろ勉強して分かったのでまとめやすかった。
- ・体験や例などをとりあげて書いたから。
- ・(保健で勉強したから) 調べるのが楽だった。
- ・調べてまとめてからやったから書きやすかった。
- ・前々から思っていたことだった。

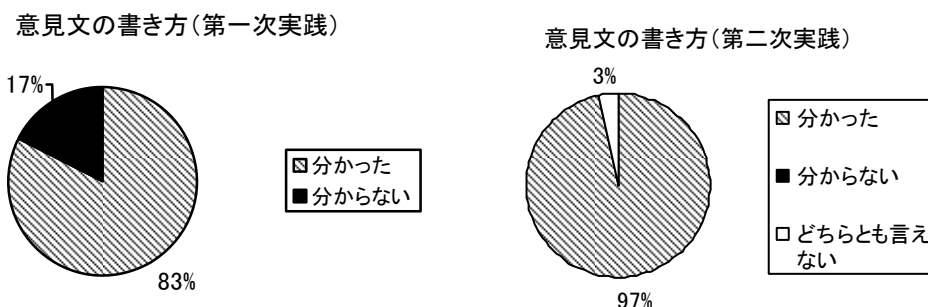
第二次実践について

- ・テレビなどを見ていていつも強い意見をもっていたのでとてもよく書けたから。
- ・パソコンや本などで調べ、図などで表せたから。
- ・グラフや体験などを使って書いたから。
- ・1回書いたので、どのように書いたらいいか、分かったから。
- ・自分の書きたいことがまとまったから。
- ・環境のことはよく聞いていたので書きやすかった。
- ・1回目より2回目の方がかなり調べたから。

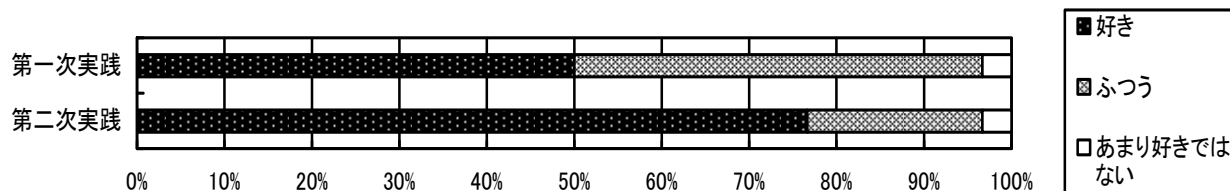
(2) 実践を重ねることについて

第一次実践，第二次実践それぞれが終了した際に行った各種のアンケート，調査の結果は次の通りである。(資料7・8・9・10)

【資料7 意見文の書き方理解】



【資料8 意見文を書くこと】



【資料9 意見文の書き方でわかったこと(抽出児A・B)】

- 抽出児A 1回目 自分の実際の体験を書くとはわりやすいということが分かった。
 2回目 実際の資料もいっしょに出すとわりやすいということが分かった。
- 抽出児B 1回目 自分の体験を入れてみんなの注目をあつめて、自分の意見を反論なども書いて説明する。
 2回目 図などをのせて、自分にも関係のあることだと分かってもらう。

【資料 10 意見文の書き方でわかったこと（その他の児童）】

（第一次実践）

- ・ 反対意見を予想して，細かいところまで考えておく。
- ・ 相手が読みたくなるように書く。
- ・ 言いたい事をまとめて，分かりやすく書く。調べた事，反論に対する考えを書いて分かりやすくする。
- ・ 主張したい事を中心に書く。
- ・ 問い掛けの文を入れる。
- ・ 自分の意見をはっきり言う。体験を言う。
- ・ 具体例を出す。

（第二次実践）

- ・ いろいろなことを詳しく調べて，本当に自分の言いたいことをはっきりする。
- ・ グラフをかく。
- ・ 分かりやすくまとめがしてある意見文を書く。
- ・ 調べたことを全部書かず，一つ一つまとまりで書く。
- ・ つなぎ目の所で少し話題を入れてから入る。
- ・ 自分の意見と根拠になることを入れて書く。
- ・ 図も入れて，分かりやすくすると，より理解度が増す。
- ・ グラフや資料を上手に使うこと。
- ・ 具体的な数字を示す。
- ・ 難しい言葉を分かりやすい言葉に直す。

第一次実践では，まだ十分に意見文の書き方に慣れていなかった。（資料 5）そのため，「とても書きやすい」，「少し書きやすい」という児童が「今まで」よりも多くなったが，意見文を書くことが「好き」と言うまでには至らず，まだまだ自分の意見を表現することに苦手意識がある様子が見られる。

（資料 8）しかし，第二次実践では，意見文の書き方を二回学習したため，ほとんどの児童が書き方について理解することができた。（資料 6・7）また，意見文を書くことについて，「好き」という児童の割合が 80% 近くになり，自分の考えを意見文として書くことに抵抗がなくなったと言える。さらに，意見文の書き方でわかったこと（資料 9・10）を見ても第一次実践より第二次実践の方が，具体的である。これを見ても十分書き方を理解できたと言える。以下が，第二次実践に意見文を書くことについてどうして好きになったか，児童に聞いた理由である。

【資料 11 意見文が好きになった理由（抽出児 A・B）】

抽出児 A 自分の意見がスラスラとかけたから。

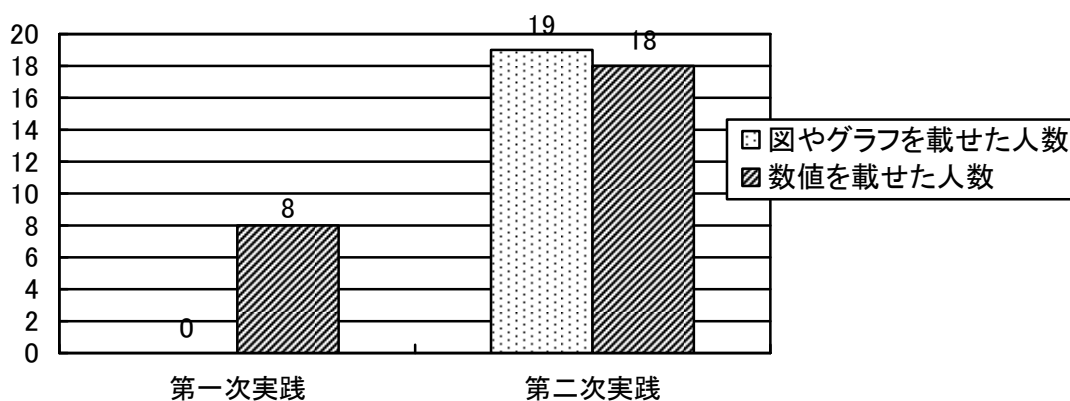
抽出児 B 図などをのせたり，パソコンで調べたら，前から好きで書くことがもっと好きになったから。

【資料 12 意見文が好きになった理由（他の児童）】

- ・ 一生懸命頑張って書いた意見文を分かりやすいとみんなが言ってくれたから。
- ・ 自分の意見を文にして表すのは楽しかったから。
- ・ 調べたことの意味をたくさん書いたり，まとめに自分の意見など書いて相手から分かりやすくしたから。
- ・ 書きやすくなったから。

- ・本やパソコンで調べたりできたし、自分の意見を相手に伝えることができたから。
- ・自分の意見が書けるから。
- ・最初、中、まとめの順で書けばいいから。
- ・自分の知っていること、伝えたいことが言えるから。
- ・けっこう簡単だったから。
- ・自分の意見を正しく述べることができるから。
- ・自分の意見を書けるようになったから。
- ・自分の意見をほかの人に伝えることができるから。
- ・やっけていくうちに書くのが楽しくなったから。
- ・意見を述べて考えることが楽しくなった。
- ・自分の意見を相手にうまく伝えられることができたと思ったから。
- ・意見文は人の考えを動かせるかもしれないので、その人の役に立てるかもしれないから。

【資料 13 文中に図やグラフ, 数値をのせた人数の推移】



次に、第一次実践と第二次実践の意見文の内容を見ると、次のような違いが見られた。(資料 13) 第一次実践では、図表やグラフの読み取りはできているが、意見文の中に図示するという活用はできなかった。そこで、第二次実践では図表やグラフを入れて書くよう指導した結果、意見文の中に使用する児童が増え、より具体的で客観的な意見文を書くようになった。

さらに、意見文を書くときに工夫したことを調査すると次のような意見が得られた。(資料 14・15)

【資料 14 意見文を書くときに工夫したこと (抽出児)】

- | | | |
|-------|------|----------------------------------|
| 抽出児 A | 1 回目 | 自分の体験談を書き入れたこと。 |
| | 2 回目 | 具体的な数値を書き入れたこと。 |
| 抽出児 B | 1 回目 | 自分の体験を書く。どのような害があつて、自分はどう思うか書いた。 |
| | 2 回目 | 図をのせた。相手の意見に反論の形で自分の意見もいう。 |

【資料 15 意見文を書くときに工夫したこと（その他の児童）】

第一次実践	第二次実践
きれいで読みやすい字を書いた。	図には色を付けて説明した。
反対意見を予想して細かいところまで考えておく。	いろいろなことを詳しく調べて、本当に自分の言いたいことをはっきりさせる。
相手に聞く形（疑問形）で書く。	1 回目のように図を丸写しせずに分かりやすく書きかえた。
体験したことを詳しく書いた。	調べたことを自分の言葉に直して書いた。自分の意見を書いて、どうするかも書く。
本で調べた。	グラフや資料をたくさん作った。
呼び掛けの文を書いた。	自分の考えをはっきり表した。
自分が知らないことを親に聞いてみた。	パソコン、本で調べたことを必要なものだけ使う。
分かりやすく書いたり、自分の体験を書く。	グラフなどを使い納得させる。
事実を並べて自分の考えをはっきりと書く。	インターネットで調べてできるだけまとめた。調べたことを基にして論理的に書く。
一つのことについて詳しく述べた。具体例を出す。	具体的な数字を出した。
分かりやすく説明を書いた。パソコンで調べた。	もっと分かるように説明＋意味も書いた。パソコン＋本でも調べた。

この表の左右は、同じ児童の意見である。この表においても、抽出児の意見を見ても、第一次実践より第二次実践の方が、工夫したこともより具体的な内容になっていることが分かる。以上のことから、仮説で示した「プロセスを繰り返すこと」は、読解力向上に有効であったと言える。

おわりに

今回の研究では、第一次実践で、読み手に興味をもたせるよう体験を書いたり、呼び掛けや自分の意見に対する反論を取り入れ、説明したりして国語科で学んだ意見文の書き方を理解し、他教科で学んだことを生かして、更に調査追究して得た自分の考えを表現することができた。しかし、まだ、十分に図表やグラフを活用し、自分の意見を表現できたとは言い難かった。繰り返し実践を行う必要性を感じ、第二次実践で、再度、理科、社会の単元を使って国語の意見文との連携を図り、PISA型読解力が身に付くように取り組んだ。その結果、多くの児童が、分析的に資料を読み取り、自分の意見を自信をもって表現できるようになってきた。繰り返し同じような学習形態で、表現を積み重ねることは、論理的に自分の考えを述べるようになる児童を育成するのに有効であると言える。また他教科の学習を生かし、その学習内容から、自分の課題を見付け、追究していくことは、児童にとって、より情報が収集しやすくなり、情報の取捨選択も容易で、自分の考えを深めるのに役立つと言える。これらのことから、PISA型読解力を育成するためには、他教科と連携し教科横断的な学習を行うことは有効である。

今回は、表現力の中でも「書くこと」を中心に実践を行ったが、次は、更に幅広くPISA型読解力の育成に取り組んでいきたい。

【文末資料 1 学習指導計画】

①第一次実践（平成 19 年度 6 年生 2 学期）

教科 単元 / 時	体育科保健領域（4時間完了） 「たばこ，酒，薬物の害から 身を守ろう」大日本図書	国語科（16時間完了） 「私の意見を書こう」 東京書籍	育てたい読解力
1 2 3 4	たばこを吸うことによる 体への影響を理解する。 酒を飲むことによる体へ の影響を理解する。 薬物の乱用による体への 影響を理解する。 死は個人的な出来事でな く，周りの人に大きな影響を 与えることを理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・書かれた内容を正確に 読み取る。 ・図表，写真やグラフな どの様々な資料を読 み取る。 ・理解したことを発表し 合い，他の意見を聞き ながら自分の考えを 深める。
1 2 3 4 5 6 7 ・ 8		<p>全文通読をし，意見文の効 果的な組立てについて理解 する。</p> <p>取り上げる問題を決め，調 べる。</p> <p>取材メモを書き，自分の意 見をまとめる。</p> <p>組立てを工夫して，構成メ モを書く。</p> <p>意見文の下書きを書く。</p> <p>意見文を推敲し，清書す る。</p> <p>お互いの作品を読み合い， 感想や意見を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文の組立てを理解 する。 ・図書資料や教材文，イ ンターネットを活用 し，必要な情報を読み 取り，取捨選択する。 ・保健の学習で理解した ことも含め，意見文の 組立てに合わせて取 材メモ・構成メモを書 き，自分の考えを深め る。 ・学習したことを分かり やすく文章化し，自分 の考えをまとめる。 ・話合いを通して，他の 作品のよさを伝え合 い，自分の意見文に活 用する力を養う。

②第二次実践（平成19年度6年生3学期）

教科 単元 / 時	理科（10時間完了） 「人とかんきょう」東京書籍	国語科 「私の意見を書こう」東京書籍	育てたい読解力
1 2 ・ 3 4 ・ 5 6 ・ 7 8 9 10	<p>人は、空気や水、植物や他の動物とどのようにかかわり、どのような影響を及ぼしているか調べる方法、まとめ方を話し合う。</p> <p>人と空気とのかかわりを調べ、生き物にどのような影響を及ぼしているかまとめる。</p> <p>人と水とのかかわりを調べ、生き物にどのような影響を及ぼしているかまとめる。</p> <p>人と植物とのかかわりを調べ、生き物にどのような影響を及ぼしているかまとめる。</p> <p>人と環境保全について考え、その大切さと自分たちにできることを話し合う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・書かれた内容を正確に読み取る。 ・写真や表、グラフなどの様々な資料を正確に読み取る。 ・理解したことを発表し合い、他の意見を聞きながら自分の考えを深める。
教科 単元 / 時	社会科（8時間完了） 「国際連合のはたらきと日本人の役割」大阪書籍		
1 2 3 4 5 ・ 6 7 8	<p>ユニセフの活動と国際連合について調べる。</p> <p>国際連合の目的や働きについて調べる。</p> <p>国際連合の世界平和維持のための働きや取組を調べる。</p> <p>地球上の環境問題とその対策を調べ、国際連合の働きと各国の協力の重要性を理解する。</p> <p>スポーツや文化の国際交流について調べ、平和への努力をしていることに気付く。</p> <p>日本の国際協力、援助について調べ、理解する。</p> <p>自分たちに何ができるのか考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・書かれた内容を正確に読み取る。 ・図表、写真やグラフなどの様々な資料を正確に読み取る。 ・理解したことを発表し合い、他の意見を聞きながら自分の考えを深める。

9 10	意見文の効果的な組立てについて振り返る。 取り上げる問題を決め、調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文の組立てを復習する。 ・図書資料や教材文、インターネットを活用し、必要な情報を分析・選択する。
11	取材メモを書き、自分の意見をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを深め、効果的に伝えるため、取材メモ・構成メモにまとめる。
12	組立てを工夫して、構成メモを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを論理的にまとめる。
13	意見文の下書きを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いを通して、他の作品のよさを伝え合い、自分の意見文に活用する力を養う。
14	意見文を推敲し、清書する。	
15 16	お互いの作品を読み合い、感想や意見を発表し合う。	

取材メモ①(調べた事)

酒の害には どの程度な ことがあるか	脳(あたま)には 酒にはアルコールが入っていて、アルコール は脳のはたらきを低下させる。 少量の酒でも飲むと判断力が小さく なったり、きんちょう感がなくなったり して事故をおこすこともある。 短い時間に大量の酒を飲むと 死ぬこともある。 脳や肝臓に悪い影響がある。 また、生活習慣病になりやすくなる。 10代から飲んでいくと、性ホルモンに んきょうが出たり、やめられなくなる。 祝い・祭礼・そうじなど、酒を飲む 人が多い。
--------------------------	--

日本人は酒にあまり強くない体質!

取材メモ②(自分の意見と体験)

私は、小さいころ、お父さんに「少しなめてこら
と」言われてなめてみました。小さいころは
酒のことがまだよく分からず、いなかたけど、
それはとてもいけないことだと思いました。
私のおじいさんも酒を飲みすぎておれ
たことがあったので、酒はとてきやうだと
思いました。

酒を飲んで車を運転することは、
事故につながるのはいけないと思
った。
「少しだけ」と思わないことが大切。
10代から飲んでいくとやめられな
くなるので、せたいに飲んではい
けないと思います。子供に飲ませ
ようとするのは、いけないと思
った。

にががた

構成メモ

結論	本論	序論
<p>まとめ 文章全体を受け て自分の考えを まとめる(あ)</p>	<p>自分の意見 調べたことがら に対するまとめ や考え</p>	<p>自分の体験談 取り上げた問題 (問題提起)</p>
<p>お酒は20才以下の人は、せたいに 飲んではいけない。また、飲みす きに注意。</p>	<p>酒に入っているアルコールは、脳のはたらきを 低下させる。○脳や肝臓に悪い影響がある。 少量の酒でも飲むと判断力が小さく なったり、きんちょう感がなくなったり して事故をおこすこともある。 短い時間にたくさん飲むと死ぬこともある。 生活習慣病になりやすくなる。 祭りや友達にさそわれて飲む人が多い。 飲酒運転はせたいにしてはならない。 子供(10代)にお酒は飲ませたらいけない。 友達にさそわれたら断る。(10代で)</p>	<p>小さいころお父さんにビールを少し なめさせられたらにががた。 おじいさんがお酒の飲みすぎでたおれた。 お酒には、どのような害があるか。 お酒の害を防ぐ方法を考える。</p>

○「構成メモ」を書きました。

Bの意見文「酒の害を防ごう」

私が幼いころある日お父さんに「ビールってどんな味」と聞いたらお父さんが「少しなめてみるか」と言ったのでなめてみたことがある。この時私はまだビールのことをよく分かっていなかったけれど今思えば悪いことだと思いました。

ほかに私のおじいさんがお酒の飲みすぎで倒れたこともありました。

私はこのような事を防ぐためにお酒の害について調べ防ぐ方法を考えることにしました。

日本人はあまりお酒に強くない体質なので、たくさん体にいきよぐがあります。お酒にはアルコールが入っていて、アルコールは、脳のはたらきを低下させます。また、少量の酒でも、飲むと判断力がにぶくな

りして、事故をおこすこともあります。短い時間に大量に飲むと、死ぬこともあり、生活習慣病にもなりやすくなります。10代から酒を飲んでいると、性ホルモンにいきよぐが出たり、やめたたくても、やめられなくなったり。また、脳や肝臓にも悪いいきよぐが出たり、肝臓が赤くはれあがりたりします。祝い・祭り・そう式などのときや、家族や友だちといっしょに飲む人が多いそうです。

私は、事故の原因になる、飲酒運転や、10代からお酒を飲むことは、法律でも禁止されているので、絶対にいけないと思いました。そして、二十才以下で親や友達にさそわれたら、きっぱりと断ることも大切だと思います。


「少しくらいならいいだろう」という人もいるかもしれませんが、しかし、少しの酒でも判断力がにぶくなるなどの害がある。少しだけ」という心も持たないことも大切だと思います。

お酒は、二十才以下の人は絶対に飲まないこと。そして、飲みすぎに注意して、一人一人が気をつければ、お酒による害は、少しは防げると思います。

【文末資料3 Aの意見文「水質汚染と水を汚さないようにする工夫」】

汚染物質	人間や環境への影響
有機物、固形物	水中で微生物などにより分解される時に急激に酸素が消費されて酸素不足となり、悪臭を発生し、魚などが死亡する
栄養塩（窒素、リンなど）	植物プランクトンの増殖を促進し富栄養化を生ずる
有害物質	重金属やシアンなど人の健康や生態系に悪影響を与える
病原性微生物	飲用すると下痢や病気の原因となる

下水道の様子



ほくが、四年生ぐんいのこの家の近くの
ぶに魚をとり遊びに行きました。すると、
水の上に油のよなものかういていました。
さらに、水の中にいた生き物
をつかまえて、たろとぶ
の底にヘドロが積もっていま
した。また、テレビでは、赤
潮という現象により魚がたく
さん死んでいるといいうことを
聞いたことがあります。

そこで、ぼくは水質汚染と水を汚
さないようにする工夫について話
したいと思います。

まず始めに私たちは生きています
生きていれば当然食事を行います
ると自然に排泄物を出しているとい
うことになりました。こうすると大
量の水が流れていき地下水を汚染するこ
とになってしまいます。



その上、私たちは日常生活で知らず知らず
のうちに様々な化学物質を海や川へ流してい
ます。例えば有機物や固形物です。これらが
流れてしまうと水中で微生物により分解され
る際に酸素が急激に消費され酸素不足となり
悪臭を放つてしまいます。そして、これが
くま川や海などの魚などが死んでしまいます。こ
のようなことが発生してしまわないために私
たちは日々の生活で排水口に砂糖やろうなど

こげつくものを流さないようにすることが大
切です。

特にイワナなどの清流に住む魚が住め
る水の汚濁度はニビービーエムが最高で
す。しかし、私たちの生活排水の汚濁度
はなんとその百倍の二百ビービーエムにも
なっています。

このことから、ぼくは、いくら面ごつ
でも料理のときに出た調味料は排水口に
流すのではなく紙で吸いとるなどの工夫が必
ず必要になってくると思います。

しかし、一回一回調味料を
くきとるのは面倒だとい
う人やどうせ下水処理場できれ
いにしているからいいとい
う人がたくさんいると思いま
す。

でも、これからは下水処理場ばかりにたよ
るのではなく私たち一人一人が水のことを
考えていかなないと自分で自分を殺すとい
うことになってしまいかもしれません。なの
で、今からちょっとしたことでもいいので水を
汚さないようにする工夫をしてみたいと思
います。ぼくは、思いました。